

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和5年度 嬉野市第2回食育推進会議	
開催日時	令和6年2月22日(木) 14:00～15:15	
開催場所	嬉野市役所 塩田庁舎3階 3-2会議室	
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由		
出席者	委員	森委員、江口委員、坂井委員 川原委員、津留委員、松尾委員 長島委員、籠委員、成富委員、 山口委員、田中委員、中山委員、坂元委員
	事務局	健康づくり課長、健康づくり課統括保健師 健康づくり課副課長2名 健康づくり課主任、健康づくり課主事
	その他	
会議の議題	別紙のとおり	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議レジメ ・ 市報 11月号・2月号 	
審議等の内容	別紙のとおり	

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
審議経過	<p>1. 開会</p> <p>2. 健康づくり課長挨拶</p> <p>委員の皆様、嬉野市における食に関する様々な活動に感謝する。能登半島地震の被災地では、支援のおかげでようやく命を守る食事から、健康を守る食事へ移行しているが、子どもたちへの食事には大きな影響が出ている。今回は子どもの食育をテーマに基づいて協議をしていただきたい。</p> <p>3. 嬉野市食育推進会議会長挨拶</p> <p>本日は皆さんの意見をたくさん話していただき、会議が滞りなく進むようお願いしたい。</p> <p>4. 協議事項</p> <p>【事務局】</p> <p>出席者数13名、委員総数15名の過半数を超えているので本会議は成立する。</p> <p>(1) 令和5年度嬉野市食育推進事業報告について</p> <p>1) 食育推進事業について</p> <p>【事務局】P1・2について説明</p> <p>食生活改善推進員の養成講座である「栄養教室」は非常に高い終了率、参加率となった。食生活改善推進協議会には、栄養教室の受講者も1/3程度入会してもらっているが、退会も多く、会員の減少と高齢化が課題となっている。</p> <p>2) 食育広報及び食育推進に関する調査について</p> <p>【事務局】P3・4について説明</p> <p>今年度は、保育所や学校の食育活動を積極的に取材した。嬉野ルンビニこども園ではみそ作り、嬉野幼稚園ではみそ玉づくりが行われ、両園のみそ作りは、みゆきの里加工室と一緒に実施された。委員の皆さんには相互に連携して、食育を推進していただいた。</p> <p>(2) 令和5年度小・中学校、保育園・幼稚園、学校給食センターにおける食育の取組みについて</p> <p>(3) 委員の皆さまの食育活動について テーマ「子どもの食育について」</p> <p>1) 現状について(事前アンケートを参考に)</p> <p>2) 今後の課題とテーマについて</p> <p>【委員】白石町の乳幼児健診に携わっているが、野菜を食べないという相談や保育所では食べるのに、家では食べないという相談が多い。まじめで一生懸命なお母さんほど、SNSの情報や周りの子と比べたり、量をきっちり量ってグラフをつけたりと悩まれている。食事は一生付き合っていくものなので、興味を持って楽しく食事することが大切だと伝えていきたい。</p>	

審議経過

【委員】食生活改善推進協議会では、小学校から高校まで年に1回食育教室を開いている。また、塩田小校区だけになるが、放課後の子どもの居場所作りということで、月に1回子どもクッキングを開催している。日本人の体に一番合っているのは郷土料理だと思うが、最近は食卓にのせることが少なくなっている。昔から食べられてきた郷土料理を各地に進めて、健康づくりに役立てていかなければならない。また、子どもが食べてくれないと悩んでいるという話もあったが、そういった食の話題を食卓に乗せてくれる家庭が増えればいいのではないかと思う。そのためには、食育教室などを通して子どもたちに教え、子どもたちから話題提供してくれるようになったらいいと思う。

【委員】母子保健推進員としてお母さんにアプローチできるのは、赤ちゃん訪問くらいしか機会がない。そこで、市の赤ちゃん相談のときに離乳食相談があるので積極的に参加してくださいという話をしている。上のお子さんがいらっしゃるところもあるので、市で食育の取り組みがあれば参加したいかなど、希望を聞いていきたい。3歳児健診のアンケート集計にあった、朝食をバランスよく食べているというのは、保護者の主観か？

【事務局】バランスは市で判断している。「何を食べていますか？」と質問して、ごはんとたんぱく質があれば△、ごはんとたんぱく質に野菜まであれば○というような感じで判断している。

【委員】健診の手伝いをすることもあるが、保健師や栄養士がいろいろな資料をもって保護者に話に行っていていいなと思った。

【委員】学校や保育所から要請があったときに、みそ作りのお手伝いに行っている。麹と大豆を持って行って、子どもたちにみそを作らせて、3か月たったら食べていいという活動を主にしている。今後は昔から作られている発酵食品なども取り入れて指導をしていきたい。

【委員】食育というよりも、地域との関わりを深めたいと思っている。ちょうど去年の会議で、みゆきの里さんからお話をいただいて、味噌作りができるようになったり、収穫体験ができるようになったりした。また来年度に向けても何かそういった広がりができ、それが食育とも結びつけば一番いいと思う。食育調査の報告書で、大草野小学校と和光幼稚園の交流があったのを見た。子ども同士の交流はできていないので、連携して食育に繋がる活動ができればと思う。今まで栄養士がパートだったが、来年の4月から正職員として迎える。その栄養士が沖縄で仕事をしていたこともあり、地域性を取り入れた食育もできるのではないかと思う。

【委員】以前は、白ごはんだけは家から持参してもらい、冷たい白ごはんを食べていたが、温かいごはんを提供するようになった。それに伴って、Myお茶わん作りをすると食べてくれるようになったことがあった。給食の写真を毎日SNSで配信している。給食をみて子どもと話が弾んだり、保護者からレシピの質問があったりと保護者と給食室の会話が増えたので、いい使い方になったのではないかと思う。

【委員】緑の野菜が苦手な子が多いので、おやつに入れたり、小さく切ったりと工夫をして食べてもらうようにしている。レシピの質問や相談など、保護者からのアプロ

審議経過

一チに対し、レシピを置いたり、給食の献立を毎日配信したりしている。分量はわかりやすくして、手に入りにくいものの代用品や、アレルギー対応の食品なども紹介している。「給食でこんなものを食べたよ!」という会話のひとつになればいいなと思いい取り組んでいる。

【委員】ふれあい弁当の日を年に2回実施している。高学年は保護者と一緒に弁当を作り、低学年は内容を考えたり買い物に行ったりしてもらっている。給食センターの田中先生に食育の授業をしていただいた。食育の授業をしてもらおうと食べ物のことに目が行くのでありがたいと思う。

【委員】保健福祉事務所は、直接子どもとかかわる機会はないが、給食施設である保育所給食の研修会などを通して情報を提供している。また、県の取り組みとしてジュニアアスリート向けのメニュー集を作成した。子どもは「あれ食べなさい、これ食べなさい」ではなかなか届かないので、スポーツをしている子どもには、「バランスの良い食事のパフォーマンスがよくなるよ」というような声かけが必要だと感じる。メニュー集はデジタルブックで誰でも見ることができるので、活用してほしい。

【委員】成長段階にあった食育授業をしたり、市内で生産された食材を給食に使ったりして、食や料理に興味を持ってもらえるようにした。また、給食試食会で保護者に食育の重要性を話すことができた。食育授業の回数が少ないことが課題と感じるので、回数を増やし、個別の指導も充実していけたらと思う。

【委員】農業政策課では、学校給食への地元農産物の利用促進と食育を目的に、嬉野産うまかもん給食事業を行っている。嬉野市の農産物の状況報告になるが、全国品評会で嬉野茶が農林水産大臣賞と産地賞を受賞した。また、さがびよりという米が13年連続で特A評価を取っている。前回の会議でみそ玉の話があったが、長崎の麦みそが農林水産大臣賞を受賞した。西九州地域のみそは非常に高い評価を得ている。

【事務局】前回の会議で、みそ玉の推進と子どもの食育についての話題が多くあがったので、今回はアンケートのテーマを「子どもの食育」にした。来年度以降、少しテーマを絞って進めていきたいと思っているが、みそ玉も含め子どもの食育を継続していくか、他の課題を進めていくかご意見をいただきたい。

【委員】子どもクッキングを塩田小校区だけで実施しているが、嬉野地区でも要請があったので、年に1回でもできればいいと思っている。市としては、子どもクッキングを開く予定はあるか。

【事務局】年に1回おやこの食育教室を開催し、学校へも食育教室に行っている。

【委員】食生活改善推進協議会では学校の食育教室に隔年で行っているが、受けられない学年もあるので、来年度からは毎年行くことができるように要請している。食育授業も年に1回、食育教室も隔年では浸透しないのではないかと思います。

【事務局】子どもたちへの食育教室の回数が少ないという意見もあるが、行政側としては、学校、保育所で子どもの食育に対する意識を高めるような働きかけやPRをしていきたい。

【委員】子どもに対してこういった食育活動ができるのかを提示してもらえると取り組みやすいのではないかと思います。

審議経過

【事務局】行政としては、食育教室の回数を増やすことは限界がある。学校も授業等で、これ以上時間を取れないのが現状ではないかと思うので、家庭への働きかけが大切だと思う。食育を固く考えず、包丁を持ってみましょう、魚をさばいてみましょうというような簡単にできる方法を伝えていくのが一番いいのではないかと。

【委員】SNSでの給食配信はとてもありがたいと思ったので、どの園もぜひ取り組んでほしい。子どもの食事量はグラムで提示してもなかなかわからないので、保育所ではこのくらい食べているというのが、目で見てわかれば家庭でもやりやすいと思う。また高校で授業をする機会があるので、コンビニの弁当や惣菜を使って自分に必要な栄養素を揃えるというグループワークをさせようと思っている。作ることも大事だが、いろんな食材が手に入る時代なので、その中から自分にあったものを選ぶ力も必要ではないかと思う。

【委員】来年度は、テーマや課題を決めて取り組むか？

【委員】各施設それぞれ特色があり、各自やりたいこともあると思うので、決めなくていいのではないかと。この会議で繋がりができているし、会議で話を聞く中でやりたいことが見つかっていけばいいと思う。

【事務局】来年度以降は子どもに絞らず、大人も高齢者もというふうに進めていいか？

【委員】子どもに食育をすると保護者へ、さらに祖父母へと広がっていくと思う。

【委員】子どもの食育というが、土台であり根っこになっているのは家庭。食育というとても堅いイメージがあるが、食事を楽しむとか、みんなでおいしいものを食べるということが、大きい差になっていくのではないかと思う。マナーなども学校で付っきりで教えることはできないので、まず保護者を取り込んで進めていけたらいいと思う。

【委員】大塚製薬が食育アプリの「もぐもぐタウン」を発表した。無料なので、それほど負担感なく、親子で楽しみながら取り組めるのではないかと思う。

(4) 令和6年度嬉野市食育推進事業計画について

1) 食育推進事業計画(案)について

【事務局】栄養教室は、来年度から塩田保健センターのみで定員を増やして実施する。また、学校での食育教室は今まで隔年で実施していたが、年々要望多くなってきているので、なるべく多くの学校の支援ができるように開催回数を増やして実施する。食育講演会は県の助成事業で、講師への謝礼、交通費を含めて無料で開催ができるので、ぜひ利用してほしい。

2) 食育広報及び食育推進に関する調査について

【事務局】学校や保育所だけでなく、地域の食育活動も取材したいので、実施される場合はご一報いただきたい。

5. その他

(1) 嬉野市食育推進会議委員名簿

6. 閉会

以上